

なぜ新規感染者数は激減しているのか ワクチン効果が強調されているが…

2022/6/7 日刊ゲンダイ

新型コロナの新規感染者数が激減している。今月 1 日に開かれた「第 86 回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザー



新規感染者数は激減 (PCR検査センターに列を作る人々) / (C) 日刊ゲンダイ

ボード」に提出の「直近の感染状況等の分析と評価」にも表れている。

全国の新規感染者数（報告日別）は、直近の 1 週間では 10 万人当たり約 138 人となり、今週先週比は 0.73 と減少が続いている。また、年代別の新規感染者数は全ての年代において減少。死亡者数は横ばいだが、療養者数及び重症者数は減少が続いている。全国の実効再生産数は 5 月 15 日時点で 0.98 と 1 を下回る水準となっている。

この傾向は日本だけでなく世界的なものだ。

アメリカのジョンズ・ホプ

キンス大学のまとめによると、今年 1 月中旬に全世界で 400 万人近くあった新規陽性者数（7 日間移動平均）は 6 月 2 日時点で約 50 万人と 8 分の 1 にまで減少。1 日当たりの死者数も 2 月に 1.5 万人に迫る勢いだったが 6 月 2 日には 1602 人と 10 分の 1 近くにまで減少している。感染者もそれだけ減少しているはずだ。

専門家の多くはその理由を季節性に加え、ワクチン接種と感染により免疫が上がったためだという。

確かにワクチンの効果はあるだろうが、それは限定的で、それ以上に感染により免疫が獲得されたか、ウイルスが変化したため、と考えるのが自然ではないか？

実際、1 回でもワクチンを打ったことのある人の割合が 20% 以下の国でもいまは新規感染者数は大きく減少している。例えばジャマイカでは 1 回でもワクチンを打った人の割合は 27.3% に過ぎないが、1 日の新規感染者数は 1 月 14 日の 1267 人から 3 月 17 日には 0 人となっている。

もっとも、新規感染者数の増減は検査数によって左右される。ジャマイカは検査数が少ないから実際はもっといるはず、との意見もあるだろう。それは日本を含めた先進諸国も同じ。検査数が少なければそれだけ新規陽性者・感染者数は減る。世界的な感染者数の減少は各国が検査戦略を変えたせいかもしれない。

弘邦医院の林雅之院長が言う。

「日本でも空港や港の検疫で発見される感染者数が 5 月末まで連日 1 日 100 人超えだった

のが、6月からは1日5人程度になった。これは入国者の検疫が緩和されたためです。感染者数がこれだけ広がるとその数を把握しても意味がない、いまはどのような性格のウイルスに変化し、どう広がるかが重要であってそれを注視しようと方向を転換している国が増えていて、日本もその方向に舵を切ろうとしている。私たちも流行するウイルスについての情報に注意すべきです」

ちなみに、冒頭の感染症対策アドバイザリーボードでは現在主流のオミクロン株はデルタ株に比べ、世代時間が約2日（デルタ株は約5日）に短縮、倍加時間と潜伏期間も短縮し、感染後の再感染リスクや2次感染リスクが高く、感染拡大の速度も非常に速いことが確認されているとしている。また、デルタ株に比べて相対的に入院・重症化リスクは低いですが、感染の致命率は、季節性インフルエンザの致命率よりも高く、死亡者は、昨年夏の感染拡大と比べ、80歳以上の占める割合が高くなっているという。

なお、海外では日本とは異なる種類のオミクロン株への置き換わりがみられる。その重症度は不明だが、警戒が必要だ。